

# 平成27年度 仙北市読書感想文 コンクール

「平成27年度仙北市読書感想文コンクール（仙北市教育委員会主催・角館図書館後援会後援）」が行われ、応募総数134点の中から仙北市長賞に橋海斗さん（小中学校の部・角館小5年）、戸澤優希さん（高校の部・角館高3年）が選ばれました。2月21日に仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、入賞者に表彰状と記念品が手渡されました。仙北市長賞の受賞作品（原文）と審査結果を紹介します。

## 仙北市長賞（高校の部）



『当たり前だと思っていたこと』  
角館高校3年 戸澤 優希

「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンで世界は変えられる」という言葉を彼女が述べたのをテレビで見ると時は、衝撃を受けた。彼女は、

教育支援についての発言をし、ドキュメンタリーへの出演によって身元が知れ渡り、タリバンに命を狙われる身となってしまった。生死の境をさまよったあとも、教育についての活動を続けた。その活動を讃え、十七歳という若さでノーベル平和賞を受賞した。彼女を知ることにより、情報の怖さ、教育の大切さ、貧困や平和について考えさせられた。

情報は私にとって無くてはならない。今の時代、ネット社会となっている。簡単に色々な情報を得ることが出来る。その反

面、嘘の情報が本当であるかのように伝わることや、個人情報漏えいしてしまう怖さもある。学校では、情報モラル教室が開かれ、全校でネットの使用について学び機会があり、注意していたが、本を読んで、命が危険になることもあると思うと、より一層注意していかなければならないと思った。

私は今、高校三年生である。彼女は幼い頃から教育について訴え続けてきた。私は小学校から今まで十二年間教育を受けてきた。教育を受けられることが当たり前だと思っていたけれど、世界には教育を受けられる環境が無い人達も沢山いる事を知った。これまで、勉強が嫌だと思ったり、学校に行くことが面倒だと思ったりしたことがあるが、学校に行けるということは、幸せなことなんだと感じた。勉強できるということは、紙もペンもあり、教師もクラスメイトもいる。私はもう少しで卒業を迎える。今までお世話になった教師にしっかりと感謝したい。そして出会ったクラスメイトはこれから大切にしていきたいと思う。

著書の中で、発電所が爆破され、電気が止まったり、水に困ったりした経験が示されていた。

私は戦争とはかけ離れたところで生活しているが、中学一年生の三月に東日本大震災を体験した。その時、電気も付かず、水も出ずの生活をした。いつまでこの状況が続くのかと不安を覚えた。地震の揺れを感じたり、山がうなるような音が聞こえたりした時はとても怖かった。被害の大きさは比喩にもならないかもしれないが、彼女が暮らしてきた環境を考えると心が痛む。

世界では貧困に苦しんでいる人達がいる。テレビのCMでも募金活動の協力をお願いを見ることがある。東北地方が地震により被災した際には、沢山の方に助けられた。それでも募金活動には参加してきたが、災害があつてからは、募金する時の気持ちが変わり、今まで以上に、積極的に参加している。秋田で餓死している人がいるというニュースを先日見たときは、とても驚いた。同時に、支援する団体やそれに賛同する企業があることを知り、私もボランティアとして参加していけたらいいと思った。

世界各国では、テロや戦争、紛争によって生活をまともに出来ない人達や教育を受けられない人が残る。「今後の政策を、平

和と繁栄を重視するものに変えてください。世界じゅうのすべての子どもが無償で義務教育を受けられるようにしてください。言葉には力があります。知識という武器を持ちましょう。連帯という盾を持ちましょう。忘れてはなりません。何百万もの人が貧困、不正、無知に苦しんでいます。何百万人もの子どもたちが学校に通えずにいます。勇気を持ってください。自分には無限の可能性があるとということに、どうか気づいてください。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を」と。

私は、これから専門学校に進学する。まだ教育をうけられるということに、ありがたみを感じて勉強を頑張っていきたい。彼女のように世界じゅうの人を助けられる力はないが、私の住んでいる地域の方のために働ける人になりたい。いつでもご飯が食べられ、不自由なことなく暮らせる日々感謝して過ごしていきたいと思います。今まで当たり前だと思っていたことは、当たり前ではないと気づかされた。最後に世界じゅうの人が幸せに暮らせる環境になることを望む。

読んだ本『わたしはマララ』  
(学研パブリッシング)

## 仙北市長賞（小中学校の部）



『ふっふの自由』  
角館小学校5年 橋 海斗

図書館でふっふ一冊の本がほくの目にとまった。「マララ」その名前だけは知っていた。けれど、ほくが知っていたのは、史上最年少でノーベル平和賞を受賞した女の子、ただそれだけだった。題名にひかれ、何気なくページをめくったそのしゅん間から、ほくの世界が広がった。

まずおどろいたのは、ノーベル賞まで受賞した人がふっふの女の子だったことだ。友達とおしゃべりしたりゲームを楽しんだりするふっふでもいる女の子、それがマララだった。けれど、ほくたちとは決定的にちがう面がある。それは、行動力。

十才の時、マララの住む町は、タリバンという武装勢力によってきょうふのどん底にたたき落とされた。なかでも女性に対する差別はひどく学校に通うことも一人で外出することも禁止さ

れた。その命令にしたがわなければいけなかった。あつたのかわからなかったのだ。しかし、マララは胸の中でさげんでいた。「なぜ、自由のために戦わないの。」この時のマララは十才。現在のほくと一つしかがわらない。十一才のほくは、学校へ行って友達と楽しく過ごし、テレビを見て笑ったりゲームを楽しんだりしていた。おいしい物を食べたりしていた。おもしろい物をしてた。それは正反對にマララは、絶え間なく続く砲撃の音におびえながら逃げ回る日々を送っていた。その一方で政治について深く考え平和な社会の大切さを主張し続けた。十一才の時テレビに出演し、女の子にも教育の自由を与えてほしいと訴えた。これは、とても危険な行いだ。自分の顔も考え方もタリバンに知られ命をねらわれることになるからだ。ほくがどんなに勇気を出しても、マララのような行動は起こせない。命をかけてまで社会のためにつくすことなどできないだろう。なぜマララは、こんなにも強く、そして、まっすぐに立ち向かっていけるのだろう。不思議な思

いさえる。

十五才でタリバンからじゅうげきを受け、奇せき的に回復したマララは、史上最年少でノーベル平和賞を受賞した。でも、マララはそんなことはどうでもよかったのではないだろうか。マララが本望に望んでいるのは、ふっふの自由、ただただふっふの自由。ほくはマララの生き方にふれて、ふっふの自由が許されている生活がどんなに幸せかということに気付くことができた。このふっふの自由に感謝し、「ほくにもできる戦い」とは何かを考えていきたいと思つた。

去年、フランスでテロが起きてたくさんの方が亡くなった。とてもこわいことだと思つた。何の罪もない人がぎせいになつてしまふ、幸せな生活もできなくなった。ある日突然、命をうばわれた人、大切な人をなくした家族、みんなが悲しい思いをするだけのテロは許されないことだと思つた。マララの望んでいたふっふの自由、それをほくたちも大切に守り、平和な世界をつ

## 読書感想文コンクール審査結果（敬称略）

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>仙北市長賞</b></p> <p>橋海斗（角館小5年）<br/>戸澤優希（角館高3年）<br/>角館図書館後援会長賞<br/>齋藤健太（角館小3年）<br/>佐川妃華里（角館小2年）<br/>芳賀萌里（角館高3年）<br/>仙北市教育長賞<br/>村岡すみれ（角館小1年）<br/>大石花（角館中1年）<br/>霞田玲奈（角館高3年）<br/>入選 小学校低学年の部<br/>浅利麻帆（松木内小1年）<br/>菊地玲衣（白岩小2年）<br/>入選 小学校中学年の部<br/>鈴木良来（角館小3年）<br/>菅原陽彦（生保内小4年）<br/>佐藤優美（西明寺小4年）<br/>入選 小学校高学年の部<br/>草薨蒼（白岩小5年）<br/>門脇時男（西明寺小5年）<br/>佐藤そら（神代小6年）<br/>入選 中学校の部<br/>柏谷真愛（角館中1年）<br/>門脇匠（松木内中3年）<br/>入選 高校の部<br/>伊藤みさき（角館高3年）<br/>佳作 小学校低学年の部<br/>阿部勇咲（角館小1年）<br/>島山紗依（西明寺小2年）<br/>藤村壮汰（西明寺小2年）</p> | <p>和と繁栄を重視するものに変えてください。世界じゅうのすべての子どもが無償で義務教育を受けられるようにしてください。言葉には力があります。知識という武器を持ちましょう。連帯という盾を持ちましょう。忘れてはなりません。何百万もの人が貧困、不正、無知に苦しんでいます。何百万人もの子どもたちが学校に通えずにいます。勇気を持ってください。自分には無限の可能性があるとということに、どうか気づいてください。教育こそ、唯一の解決策です。まず、教育を」と。</p> <p>私は、これから専門学校に進学する。まだ教育をうけられるということに、ありがたみを感じて勉強を頑張っていきたい。彼女のように世界じゅうの人を助けられる力はないが、私の住んでいる地域の方のために働ける人になりたい。いつでもご飯が食べられ、不自由なことなく暮らせる日々感謝して過ごしていきたいと思います。今まで当たり前だと思っていたことは、当たり前ではないと気づかされた。最後に世界じゅうの人が幸せに暮らせる環境になることを望む。</p> <p>読んだ本『わたしはマララ』<br/>(学研パブリッシング)</p> |
|--|---|



表彰式で入賞された皆さん。表彰状と記念品が手渡されました。